



明るい社会づくり善行者表敬を受けた

阿形英世さん



PROFILE あがた ひでよ(77・大山)
清水市(現在の静岡市)出身。結婚後、浜岡町内の病院に長年勤務。退職後、創作童話や民話を自費出版し、地元の子どもたちに読み聞かせをしてきた。

長年の活動が認められ

20年以上にわたり子どもたちに童話や民話の読み聞かせを続けてきた阿形英世さん(大山)が、明るい社会づくり運動静岡県連合会から善行者表敬を受けました。

阿形さんは、地元になんだ創作童話や民話を自ら執筆し、「ふるさと童話集・民話集」として自費出版しています。その作品の多くは、市内の幼稚園や小中学校、図書館、病院などに寄贈されています。子ども達の頃から話すことや書くことが大好きだったという阿形さん。医療相談員として長年務めた病院を退職したのを機に、本格的な創作活動を始め、今までに作った童話、民話は40作品を超えています。最初に手掛けた作品「人魚の浜」は、浜岡砂丘を舞台に男女の恋愛を交えた民話。これを冊子にして、自ら小学校で読み聞かせたところ、子どもたちからの反響は予想以上に大きいものでした。それ以来、節分や七夕などの行事のたびに、幼稚園や小学校を

回つては読み聞かせを続けてきました。地道な活動は、多くの人の共感を呼び、平成11年に、静岡県知事から豊かな知識や経験、技能、特技を持った高齢者に贈られる「しずおかマイスター」にも認定されています。

故郷の子どもたちへ

阿形さんの作品は、ワープロで打った原稿に自ら鉛筆で挿し絵を書き、それをコピーし、1ページずつ丁寧に絵の具で着色したものです。1つの作品で100部以上冊子にすることもあり、装丁はすべて夫の吉明さんが手伝って完成させました。完成まで3年近くかかったという大作「故郷カルタ」は、御前崎市の歴史と文化を、分かりやすく伝えてくれる貴重な資料でもあります。

これまでの活動を振り返り阿形さんは、「このまちを隅々まで調べ歩いたから、ここでは他の人の10倍くらい生きた気がします。子どもたちの笑顔は私の生きがいなんです」と話してくれました。